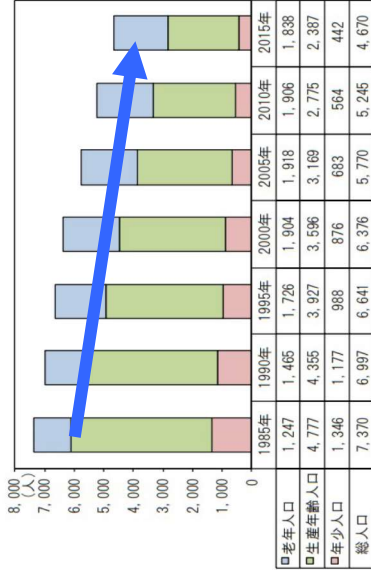


7. 上松町のデータ分析

7-1. 人口推移

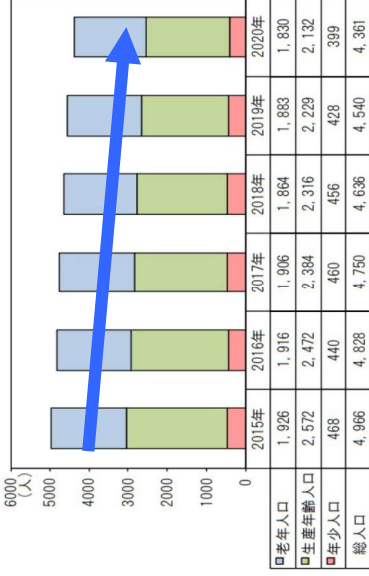
- ・日本の総人口は2008年にピークとなり、2011年以降11年連続で減少している。
- ・上松町も人口減少の一途を辿り、国勢調査をベースとした調査では5年毎に400人程度の人口減少が予想される。

上松町 人口推移



出典：第2期 上松町 地方人口ビジョン

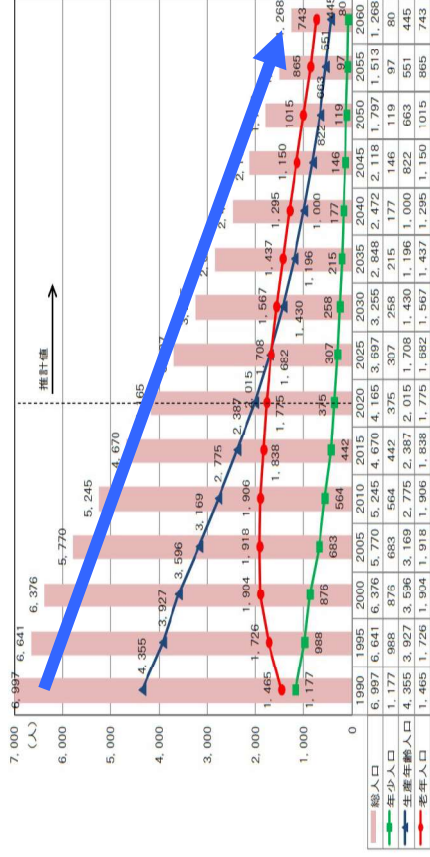
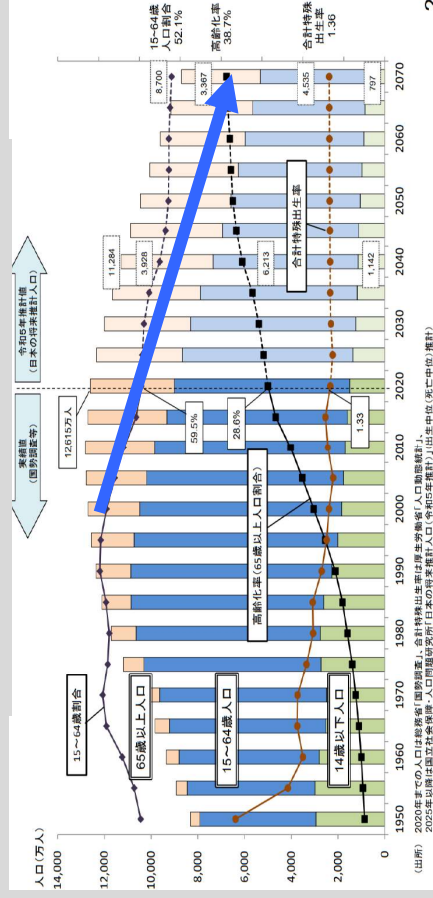
総人口は1985年の10,083人をピークに減少に転じ、1985年には7,370人、2015年には5,000人を下回っている。



出典：第2期 上松町 地方人口ビジョン

2015年は4,966人であったが、5年間で605人減少し、2020年は4,361人となっている。

日本(上)/上松町(下) 将来人口推移



出典：第2期 上松町 地方人口ビジョン

日本では少子高齢化が進み、2070年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は39%の水準になると推計されている。上松町では2015年の国勢調査をベースとした社人研の将来人口推計によると、町の人口は5年間で約400人ずつ減少し、2060年には1,268人になるとの予測がある。

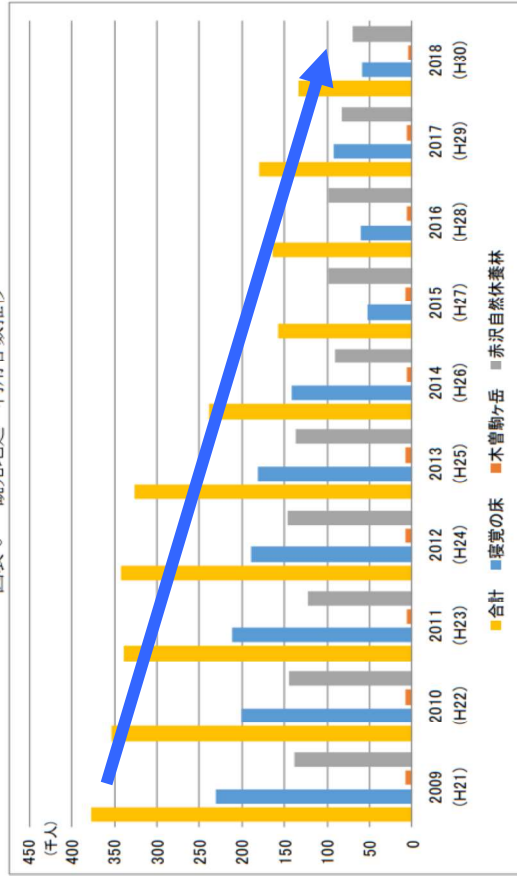
7-2. 観光入込客数 / 観光消費額

NOTE
株式会社NOTE

- ・上松町の主要観光地である寝覚の床、木曽駒ヶ岳、赤沢自然休養林への観光利用者数は年々減少傾向にある。
- ・5・7・8・10月の時期には、観光客が多く訪れるが、8割が日帰りであり、一人当たりの観光消費額は2,400円程度(R4)となっている。(長野市：一人当たりの観光消費額11,601円)

上松町 観光地利用者数

図表 6 観光地延べ利用者数推移



(出典：各年観光地利用者統計調査)

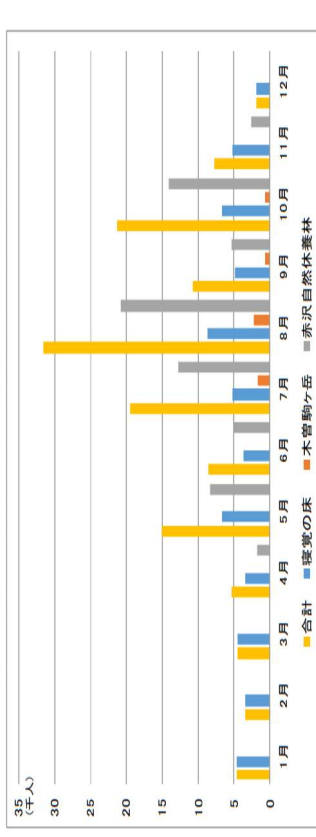
市町村別観光地	観光地延べ利用者数の推移											
	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
上松町観光地	1,399	2,365	2,300	2,000	2,113	1,904	1,818	1,420	918	582	380	685
寝覚の床	1,000	1,338	1,191	1,017	1,090	982	918	732	312	473	300	358
木曽駒ヶ岳	85	63	71	80	64	72	72	58	68	50	56	14
赤沢自然休養林	1,162	1,277	1,390	1,442	1,222	1,464	1,370	910	821	704	658	141

(出典：令和4年観光地利用者統計調査結果)

2009年から2013年までは上松町の主な観光地(寝覚の床、木曽駒ヶ岳、赤沢森林休養林)で毎年30万人を超える入込客数があった。しかし、2014年の御嶽山噴火の影響などにより24万人を下回る人数となった。また同年に、国道19号のバイパス整備、町外沿線に道の駅が設置され、御嶽山噴火が落ち着いた後でも観光客数は回復せず減少傾向にある。令和元年からのコロナ禍では観光客数はさらに激減し、R4のコロナ後は、コロナ前に戻りつつあるが、観光客数は全盛期の半分の15万人程度となっている。

上松町 観光地利用者数月別、観光消費額

図表 7 2018年(平成30年)観光地延べ利用者数月別推移



(出典：平成30年観光地利用者統計調査)

左図のデータはH28～H30の上松町観光地利用者数の月別データである。ゴールデンウィークや夏休み、秋の行楽シーズンである5・7・8・10月に観光客が多く訪れている。夏期の木曽駒ヶ岳は登山やハイキングのベストシーズンとなっており、赤沢森林自然休養林については森林浴やハイキング、川遊びなどの体験メニューが多く解禁され、夏の時期は、一番多く観光客が上松町に訪れている。また、観光消費額が最も多い観光地が寝覚の床であり、その次に赤沢自然休養林となっている。

観光地	観光消費額(千円)											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
上松町観光地	1,000	1,200	1,500	1,800	2,000	2,200	2,500	2,800	2,600	2,400	1,800	1,200
寝覚の床	1,000	1,200	1,500	1,800	2,000	2,200	2,500	2,800	2,600	2,400	1,800	1,200
木曽駒ヶ岳	85	63	71	80	64	72	72	58	68	50	56	14
赤沢自然休養林	1,162	1,277	1,390	1,442	1,222	1,464	1,370	910	821	704	658	141

(出典：令和4年観光地利用者統計調査結果)

市町村別観光地	観光消費額(千円)											
	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
上松町観光地	1,000	1,200	1,500	1,800	2,000	2,200	2,500	2,800	2,600	2,400	1,800	1,200
寝覚の床	1,000	1,200	1,500	1,800	2,000	2,200	2,500	2,800	2,600	2,400	1,800	1,200
木曽駒ヶ岳	85	63	71	80	64	72	72	58	68	50	56	14
赤沢自然休養林	1,162	1,277	1,390	1,442	1,222	1,464	1,370	910	821	704	658	141

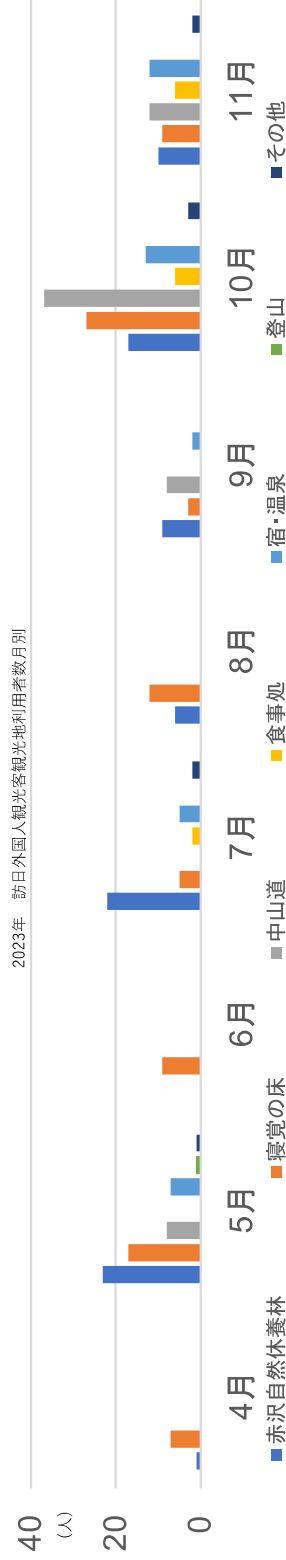
上図のデータはR3、R4の上松町観光地利用者数の月別データである。R4は、概ねコロナ以前の観光利用者数に戻りつつあり、コロナ以前と変わらず夏季に訪れる観光客が多い。また観光消費額は寝覚の床が最も多い。

7-4. 訪日外国人観光客 観光地利用者数(月別)

- ・ 訪日外国人観光客は、赤沢自然休養林、中山道、寝覚の床の観光地を目的に来訪する人が多い。
- ・ 10月は中山道と寝覚の床への訪日外国人観光客が増加する傾向にある。

上松町 訪日外国人観光客観光地利用者数月別

2023年 訪日外国人観光客観光地利用者数月別



※2023年上松町観光案内所日誌を基に上松町とNOTEで作成

訪日外国人観光客の主な上松町への来訪目的地は、赤沢森林休養林、寝覚の床、中山道であり、森林浴発祥の地である赤沢自然休養林については、5月、7月、10月に来訪する観光客が多い傾向にある。
また、寝覚の床は5月、10月に来訪する訪日外国人観光客が多く、中山道に関しては10月のみ多い傾向にあるが、赤沢自然休養林や寝覚の床の訪日外国人観光客数を大きく上回る結果となっている。

訪日外国人観光客 赤沢自然休養林観光動機

日本から森林浴の効果は医学論文に掲載され、“Shinrin-yoku”（シンリンヨク）として世界中に広まり、森林で行う健康法としてその魅力が伝わっている。
近年、世界各国から森林浴発祥の地である日本に対する関心合いが急増しており、森林浴発祥の地を巡るインバウンドツアー造成の取り組みも世界で初めて実施された。
また、ツアー参加者の参加動機の多くは聖地巡礼であり、森林浴発祥の国から学び、日本の森を歩くことを楽しみにしている訪日外国人観光客が多いことがわかった。
森林浴に対する世界からの注目が伸びていることから、更に赤沢自然休養林の観光需要は高まることが考えられる。

訪日外国人観光客 中山道観光動機

トリップアドバイザーの「外国人に人気の観光スポットランキング 2020」によると、中山道馬籠宿は日本で28番目に訪日外国人に人気の観光地であるという結果が出ており、また、その多くは欧米からの観光客であるという結果となっている。
馬籠宿から妻籠宿まで街道を3時間かけて歩く西洋人ハイカーが多く、妻籠を愛する会の「欧米人はなぜ馬籠峠をテクテクで超えるか」（R元年9月）によると、【伝統的な街並みを楽しむ】、【観光地化されていない街並みを楽しむ】といった目的が多く挙げられていた。
10月は紅葉シーズンで訪日外国人観光客の日本への来訪が多くなることもあり、馬籠宿、妻籠宿から観光地化されていない伝統的な街並みを楽しむに、中山道上松宿にも足を運んでいると推測される。

訪日外国人観光客 寝覚の床観光動機

	感動したため	思い出を作るため	健康、休養のため	食事の楽しみ	日常から解放されたいため	自然の美しさを知りたいため	その他
全観光客	9.8	33.0	37.4	33.1	33.5	13.6	13.7
全観光客（2016年度～2017年度）	9.539	10.1	33.6	33.8	31.2	13.3	13.6
全観光客（2018年度～2019年度）	33.1	53.8	35.0	34.1	32.9	24.2	16.6
全観光客（2020年度～2021年度）	13.5	61.8	38.4	40.0	35.2	28.0	14.4
全観光客（2022年度～2023年度）	539	71.3	47.1	37.2	33.1	25.1	11.7
全観光客（2024年度～2025年度）	3	100.0	33.3	65.7	100.0	33.3	—
全観光客（2026年度～2027年度）	521	71.8	47.0	36.9	31.9	25.0	16.1
全観光客（2028年度～2029年度）	0	—	—	—	—	—	—
全観光客（2030年度～2031年度）	0	—	—	—	—	—	—
全観光客（2032年度～2033年度）	3	66.7	65.7	100.0	33.3	65.7	33.3
全観光客（2034年度～2035年度）	2	—	50.0	—	—	—	50.0

出典：2017年度 木曽エリア旅行者アンケート調査【訪日外国人旅行者】

「2017年度 木曽エリア旅行者アンケート調査【訪日外国人旅行者】」のデータによると、訪日外国人観光客の観光動機の多くは、【感動したい】、【旅先でおいしいものが食べたい】であった。
寝覚の床は木曽八景に選ばれており、自然景観を体感できつつ、付近にはねぎめ亭や越前屋など地域の郷土料理が食べられる食事処もあるため、多くの訪日外国人観光客が来訪していると推測される。

7-5. 産業別人口割合・産業数 / 出荷率割合

NOTE
株式会社NOTE

- ・上松町の各産業の就業者数は年々減少傾向である。第一次産業については高齢化や担い手不足により割合が大きく減少している。
- ・工業出荷額は、近年の自動車部品製造企業誘致により年々増加傾向にあるが、上松町の主産業である製材及び木材加工業の出荷額は年々減少傾向である。

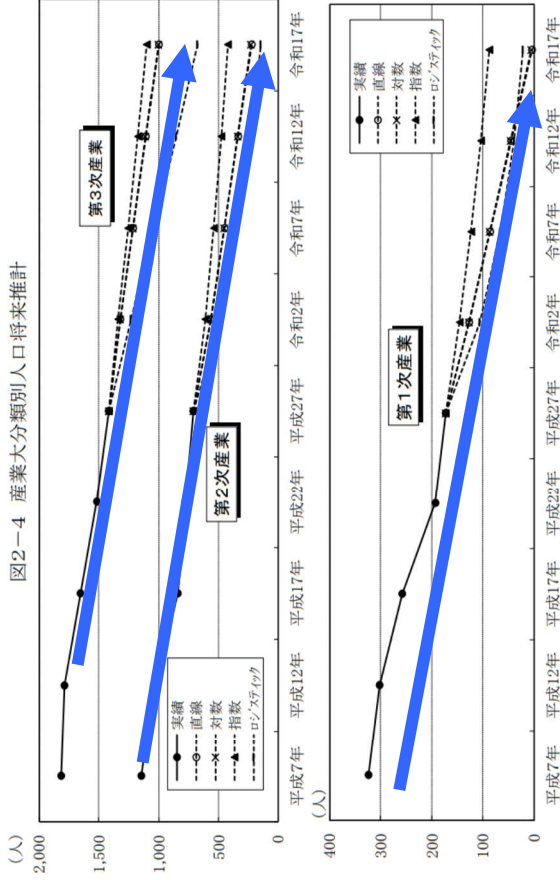
産業別人口・将来割合の推移

産業別人口推移 (単位:人)

	1985年 (昭和60年)	1990年 (平成2年)	1995年 (平成7年)	2000年 (平成12年)	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)
総数	3,785	3,492	3,287	3,128	2,751	2,494	2,303
第一次産業	617	466	326	302	258	193	173
第二次産業	1,230	1,197	1,148	1,038	840	776	785
第三次産業	1,938	1,829	1,812	1,788	1,653	1,517	1,343

分類不能の職業欄を除いて、合計が含まない場合がある。
出典：第6次上松町総合計画

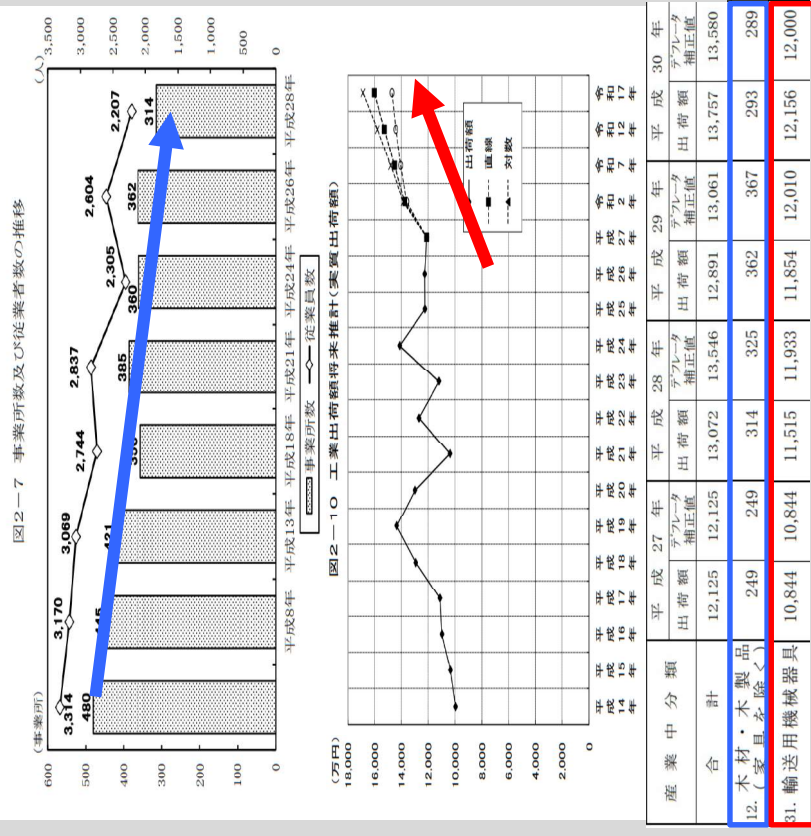
図2-4 産業大分類人口将来推計



出典：上松都市計画基礎調査報告書

第一次産業、第二次産業、第三次産業の就業人口は年々減少傾向であり、H27年以降の人口将来推計でも減少傾向が続いていることが確認できる。第一次産業の農業や林業については高齢化や担い手不足により割合が大きく減少している。

工業事業所数、工業出荷額将来推計



出典：上松都市計画基礎調査報告書

工業事業所数は減少傾向にあるものの、近年誘致してきた自動車部品製造企業により、製造出荷額は増加している。
また「木曽ひのき」ブランドに支えられた林業を基とした製材及び木材加工業は上松町の主産業であるが、製造出荷額は年々減少傾向にある。